様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 ２５ 日現在

機関番号：１７１０１
研究種目：若手研究
研究期間：2018～2023
課題番号：１８Ｋ１３１６７

研究課題名（和文）学校を超えた教師の人的ネットワークと授業改善の関係に関する研究

研究課題名（英文）Relationship between Human Networks of Teachers Across Schools and Classroom Improvement

研究代表者
兼安　章子（KANEYASU, Akiko）

福岡教育大学・大学院教育学研究科・准教授

研究者番号：００７８３１０１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、学校内外における教師間のネットワークの有無やネットワーク内の教師間の関係性、その関係変化のプロセスを検証したものである。特に、教師の中心的職務である授業に焦点化して分析を行った。社会ネットワーク分析のアプローチにより、教師個人が保有する人的ネットワークを可視化し、その変化のプロセスを詳細に検証した。教師は教材を介して学校外を含めた同教科教師同士のネットワークを形成し、それを展開しており、教師自身がネットワークを資源として活用する実態の一端を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義
教師間の関係について、社会ネットワーク分析を用いることにより、その関係性をネットワークグラフとして可視化して示すことができた。特に学校内だけではなく学校外を含めた教師の関係について、その関係変化のプロセスを含めて提示した。得られた知見は、教師のネットワークを捉える上で重要であり、教師の研修機会や人事異動の在り方等に還元可能である。

研究成果の概要（英文）：This study investigated the existence and dynamics of teacher networks both within and outside of schools. It focused on the relationships among teachers in these networks and the process of evolving these relationships. The analysis centered on the primary duty of teachers: teaching. Utilizing a social network analysis approach, the study visualized individual teachers' human networks and examined their transformation processes. Teachers developed networks with colleagues teaching the same subjects, including those outside their schools, through the use of teaching materials. This study revealed how teachers leverage these networks as valuable resources.

研究分野：教師教育

キーワード：教師　人的ネットワーク　社会ネットワーク分析　授業　教材　エゴセントリック・ネットワーク

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

教師の人間関係は、同僚である教師や管理職、子ども、保護者など様々な関係が絡み合い、複雑なものとなっている。研究開始時、教師を中心としたティーチングスタッフだけでなく、スクールカウンセラーや、スクールソーシャルワーカー、学校事務職員などのノンティーチングスタッフも加えた「チーム学校」に注目する取り組みが加速していた。学校という枠組みにおける人間関係や「同僚性」が注目される一方で、実態を把握しにくい学校の枠組みを超えたネットワークも教師の人間関係において重要な位置を占めており、着目する必要があると考えた。

これまで、教師間の関係における相談経路に着目した研究が蓄積されてきた（例えば、川上 2005、川上・妹尾 2011 など）が、相談経路を介する相談内容や情報は多様であり、その対象を限定することが困難な場合も多い。そのため、教師の中心的職務である授業に関する相談等の経路を主たる課題として設定した研究は限られており、教師間のネットワークが授業や授業力形成に与える影響は充分に検証されているとは言い難い。個々の教師は、学校内だけでなく学校外の教師とも関係を持ち、それらを活用しながら授業に関する職務を進めているが、実際にどのようなネットワークがどこまで広がっているのか、どのような情報交換等を行っているのか、そして、授業においてそれらをどう活用しているのかといった詳細はブラックボックスのままである。本研究は、教師個人を中心としたネットワークに着目することで、その一端を解明するものである。

２．研究の目的

本研究は、教師が保有する教師同士のネットワークの実態とその形成プロセスを明らかにすることを目的とする。ネットワークの中でも、とりわけ教師の授業実践に関わるものを対象とする。学校内外の教師とのネットワークの有無やネットワーク内の教師間の関係、その関係変化のプロセスを社会ネットワーク分析により可視化する。さらに、それらのネットワークが個々の教師の教材選択に与える影響についても分析する。

３．研究の方法

主として、中学校家庭科・理科教師を対象にインタビュー調査を実施した。筆者が本研究課題開始前に調査した関連する研究データもあわせて分析を行った。

本研究では、社会ネットワーク分析（social network analysis）を用いて分析を行った。社会ネットワーク分析とは、安田（1994：32）によると、「社会的行為を行う複数の行為者間の「関係」を定量的に測定し、数値としてとらえられた行為者間の関係とその特徴から、個々の行為者の行為を分析しようとするアプローチである」。社会ネットワーク分析のアプローチには大きく分けて、ソシオセントリック・ネットワークとエゴセントリック・ネットワークの２つがある。ソシオセントリック・ネットワーク（socio-centric network）は、「ネットワークの全体像を押さえてから、個々の内部の行為者の特性を見ていく方法」（安田 1997：14）である。一方、エゴセントリック・ネットワーク（ego-centric network）は、「特定の個人に注目し、その個人が取り結ぶ関係をネットワークとして分析する」（安田 1997：16）方法である。本研究では、すでに存在すると考えられる集団をネットワークの前提とするのではなく、教師個人を中心としたネットワークの実態を描き出すため、エゴセントリック・ネットワークを用いて分析を行った。教師の情報交換や相談の相手について、面会や情報交換・相談回数、教材貸借などの実態から、基準を設定し、図１のような行為者を示す点（頂点・ノード）と、行為者間の関係を示す紐帯（辺・線）を用いたネットワークグラフ（ソシオグラム）を作図することで教師間の関係を可視化した。継続したデータ収集により、ネットワークの変化について、ネットワークグラフから捉え、そのプロセスについても検討した。

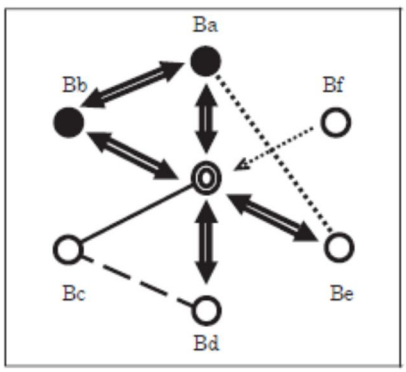

図１　ネットワークグラフ例[1)]

加えて、ネットワークグラフには表出されない教師間での情報交換や相談の内容、教材選択に関わる内容などについても分析を行った。

また、分析結果を教師に還元するべく、分析結果について複数の教師から意見を聴取し、教師が活用しやすい情報の在り方について検討した。

４．研究成果

個々の教師が同教科教師ネットワークを保有している実態の一端を明らかにした。

まず、中学校家庭科教師を対象とした調査･分析では、教師が授業で使用する教材の選択には、ネットワーク内における教材を媒介とした情報交換や相談、教材の貸借や共同開発などを含む関わりが、影響していることを示した。ネットワーク形成において、他教師とつながる窓口となる教師の存在がハブとしての役割を果たしていること、人事異動に関わる引継ぎがネットワーク形成の契機となる可能性などを明らかにした。（主に、兼安章子「学校外における同教科教師ネットワークの考察－中学校家庭科教師に着目して－」『日本教師教育学会年報』第 27 号、2018 年、122-132 ページより）また、同一自治体や近隣自治体の学校に勤務する同教科教師らとのネットワークにおけるゆるやかなつながりは、共同で運営する研究発表会などの機会に活用され、その強さを発揮していることも確認された。例えば、図２のように対象者（◆）と同一自治体や近隣自治体の学校に勤務する教師（●）とは、弱い紐帯（破線）でつながっていたが、研究発表会等を機に情報交換や相談などが活発となり、図３のように強い紐帯（実線）でつながる関係へと変化した。これは、グラノヴェター（1998）が指摘する弱い紐帯の強さとして捉えることができる。

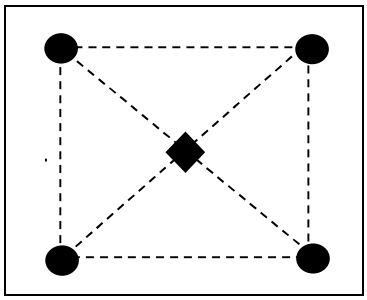

図２ 弱い紐帯を持つネットワークグラフ例

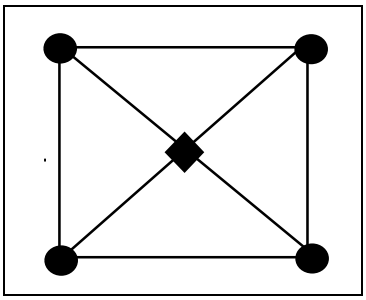

図３ 強い紐帯を持つネットワークグラフ例

次に、中学校理科教師を対象とした調査・分析では、授業に関する情報交換や相談の相手は、学校内だけに限らず、学校外も含めた教師の中から選択されていること、その関係保持には有益な情報やアドバイスが得られるなどのベネフィットが関わっていることが示唆された。学校外の教師らと関わる機会となる研修会や部活動などの職務がネットワーク形成の契機となっていることが確認された。（主に、兼安章子「中学校教師の相談・情報交換経路に関する事例研究－理科教師のエゴセントリック・ネットワークに着目して－」『日本学校教育学会機関誌』第 33 号、2018 年、89-101 ページより）

これらの得られた知見から、教師の人的ネットワークの特徴や強み、変化のプロセスなどについて総合的に分析を行い、分析で得られた情報を教師に還元するべく発信した。

<注>

１）図１は、兼安章子 2018「中学校教師の相談・情報交換経路に関する事例研究－理科教師のエゴセントリック・ネットワークに着目して－」p.97 の「図３ B 教師のネットワークグラフ」である。ネットワークグラフの描き方については、前述の論文（p.94）に示した内容を以下に記載する。なお、表として示した内容を文章化するなど一部変更している。

頂点の表記にあたって、インタビュー対象者は◎、相談・情報交換相手として確認された者について、校内の同教科教師の同僚は●、校外の同教科教師は○とした。また紐帯の種類は、相談がある場合には－（実線）、情報交換がある場合には---（長い破線）、相談・情報交換のどちらもある場合には＝（二重線）、相談・情報交換のない知人は…（短い破線）とした。ここでの相談とは対象者からネットワーク構成員に対し一方向に行われるものとし、情報交換とは両者に得る情報がある場合を指す。加えて教材貸借・譲渡がある場合にはその方向を矢印（→)で、関係性を示すために相談頻度が多い場合には紐帯を太線で示した。対象者とネットワーク構成員との関係やその間の行為は頂点と紐帯で描くため、頂点間の距離は一定に描く。インタビュー対象者を含まない構成員関係も含め、対象者の認識に基づきグラフ化した。

<引用・参考文献>

・ 川上泰彦「学校管理職による情報交換と相談―校長・教頭のネットワークに着目して―」『日本教育経営学会紀要』第 47 号、2005 年、80-95 ページ

- 川上康彦・妹尾渉「教員の異動・研修が能力開発に及ぼす直接的・間接的経路についての考察―Off-JT・OJT と教員ネットワーク形成の視点から」『佐賀大学文化教育学部研究論文集』第 16 巻 1 号、2011 年、1-20 ページ
- マーク・グラノヴェター、渡辺深訳『転職―ネットワークとキャリアの研究―』ミネルヴァ書房、1998 年、49-60 ページ
- 安田雪「社会ネットワーク分析：その理論的背景と尺度」『行動計量学』第 21 巻第 2 号、1994 年、32-39 ページ
- 安田雪『ワードマップ　ネットワーク分析　何が行為を決定するか』新曜社、1997 年、13-16 ページ

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計5件（うち査読付論文　3件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　3件）

１．著者名 兼安章子	４．巻 29
２．論文標題 教師の相談経路に関する考察ー中学校家庭科教師に着目してー	５．発行年 2023年
３．雑誌名 九州教育経営学会研究紀要	６．最初と最後の頁 41-50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 兼安章子	４．巻 72(3)
２．論文標題 教師を支える人的ネットワークの意義と意味	５．発行年 2024年
３．雑誌名 教育と医学	６．最初と最後の頁 63-69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 兼安 章子	４．巻 27
２．論文標題 学校外における同教科教師ネットワークの考察ー中学校家庭科教師に着目してー	５．発行年 2018年
３．雑誌名 日本教師教育学会年報	６．最初と最後の頁 122‐132
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.32292/jsste.27.0_122	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 兼安 章子	４．巻 33
２．論文標題 中学校教師の相談・情報交換経路に関する事例研究ー理科教師のエゴセントリック・ネットワークに着目してー	５．発行年 2018年
３．雑誌名 学校教育研究	６．最初と最後の頁 89‐101
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20576/bojase.C3307	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計2件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 兼安章子
2．発表標題 中学校家庭科教師の教材選択プロセスの検討
3．学会等名 日本家庭科教育学会 2020年度大会
4．発表年 2020年

1．発表者名 兼安章子
2．発表標題 教師の相談経路に関する考察―授業にかかわる相談に着目して―
3．学会等名 九州教育経営学会 第102回定例研究会
4．発表年 2019年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

8．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関